

安全体感装置と研修センターの運営で 産業界の労働災害事故の低減に広く貢献

同社は産業用自動機械などの設計・製作に加え、安全体感装置の開発・製造・教育研修事業を展開している。「安全体感装置」とは、労働災害を再現する機械であり、座学だけでは伝えきれない本当の危険を知るための装置であり、「安全体感装置」で労働災害を疑似体験をすることにより、実際に現場で起こる労働災害をリアルに再現し、多くの製造会社や建設会社の安全意識の向上、安全対策の構築・指導に役立っている。安全体感装置の製造販売では国内トップクラスで、販売先は400社を超える。

- | | | | |
|----------|---|--------|---------|
| ● 所在地 | 愛知県豊川市蔵子7丁目11番地の15 | ● 設立 | 1989年 |
| ● 電話/FAX | 0533-84-5581/0533-84-5585 | ● 資本金 | 1,500万円 |
| ● URL | http://www.asia-create.jp | ● 従業員数 | 32人 |
| ● 代表者 | 代表取締役 佐藤 邦男 | | |



安全体感装置事業で日系企業を中心にアジア圏にも進出

安全体感装置の製造メーカーは国内でも稀であるが、同社の製品ラインナップは約70種類ある上に、顧客の依頼に応じ適宜カスタマイズ対応も行っている。企業の安全意識の高まりにより、国内はもとより、最近では、海外からの問い合わせメールも増えアジア圏をはじめ、海外の日系企業を中心に同社の安全体感装置の販売実績が増え、製造業界や建設業界における同社の安全体感装置「ACSEL」ブランドの地位は確固たるものになりつつある。



回転体巻込まれ安全体感装置

労災対策と防災対策の技術で社会に貢献し地域での人材を確保

同社は、安全体感装置の製造・販売だけでなく、2014年にこれらの装置を設置した安全体感研修センターを本社敷地内に開設し、企業研修の受け入れを始めた。受講者数が順調に伸び累計4千人を突破、手狭になったため、2017年7月に2号館を開設し、建設業向けに、VR技術も取り入れた研修を開始した。採用難が叫ばれる中、新卒を含め、地元人材の採用を定期的に行っている。また、研修センター講師として地元企業退職者を採用するなど、高齢者再雇用にも貢献している。



安全体感研修センター(本館)

VR技術と安全体感装置の融合により新しい体感研修を提供

同社が開設した安全体感研修センター2号館は、バーチャルリアリティ（VR）を駆使して、建設現場の労働災害事故を現実に近い状態で再現した。これは、地元大学との提携により、コンテンツ内のCGを現実の建設現場を基に細部まで作り込み、実際の現場にいるような臨場感を出して、高い緊張感で労災事故を仮想体験させるものである。東京オリンピックに向けた建設ラッシュに伴い、労災対策研修の需要も増えるので、同社の製品と研修センターに対する産業界の期待は一層高まると見込まれる。



高所作業安全体感装置